

2021年9月26日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「生と死—いのちの輝き」詩編90編 高橋彰

90 | 【祈り。神の人モーセの詩。】

主よ、あなたは代々にわたしたちの宿るところ。

2 山々が生まれる前から

大地が、人の世が、生み出される前から
世々とこしえに、あなたは神。

3 あなたは人に塵に返し

「人の子よ、帰れ」と仰せになります。

4 千年といえども御目には

昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。

5 あなたは眠りの中に人を漂わせ

朝が来れば、人は草のように移ろいます。

6 朝が来れば花を咲かせ、やがて移ろい

夕べにはしおれ、枯れて行きます。

7 あなたの怒りにわたしたちは絶え入り

あなたの憤りに恐れます。

8 あなたはわたしたちの罪を御前に

隠れた罪を御顔の光の中に置かれます。

9 わたしたちの生涯は御怒りに消え去り

人生はため息のように消えうせます。

10 人生の年月は七十年程のものです。

健やかな人が八十数えても

得るところは労苦と災いにすぎません。

瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。

11 御怒りの力を誰が知りえましょうか。

あなたを畏れ敬うにつれて

あなたの憤りをも知ることでしよう。

12 生涯の日を正しく数えるように教えてください。

知恵ある心を得ることができますように。

13 主よ、帰って来てください。

いつまで捨てておかれのですか。

あなたの僕らを力づけてください。

14 朝にはあなたの慈しみに満ち足らせ

生涯、喜び歌い、喜び祝わせてください。

15 あなたがわたしたちを苦しめられた日々と

苦難に遭わされた年月を思って

わたしたちに喜びを返してください。

16 あなたの僕らが御業を仰ぎ

子らもあなたの威光を仰ぐことができますように。

17 わたしたちの神、主の喜びが

わたしたちの上にありますように。

わたしたちの手の働きを

わたしたちのために確かなものとし

わたしたちの手の働きを

どうか確かなものにしてください。

聖書 新共同訳(C)日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

この詩は旧約最大の預言者と言えるモーセの名を冠して題がつけられています。完成度や内容からもこの詩がイスラエルの民に尊ばれてきたことがうかがえます。そして人生の経験を重ねてきた年長者が、神の前でささげた祈りと見ることもできます。

一見すると、人生の短さやはかなさを悲観し、人間がなすことの有限さや苦悩に、歳を重ねてから振り返り思いをはせているかのようです。しかし、この詩は人生のはかなさや虚しさを憂うのではなく、人間は「足るを知れ」というような教訓とも違う、生と死、いのちを意味あるものだと見出そうとする思いがあふれ出てくるような詩ではないでしょうか。

この詩人は神に「主よ」(1節)と呼びかけます。そして自分(たち)を「あなたの僕ら」と名乗ります。神と自分(たち)を関係あるものとして向き合おうとしています。神は人間たちと無関係に撰理を行う者ではなく、人も神との関係を抜きにして命や人生を考えるのではないという姿勢です。神と向き合って「生きる」ことを見出し始めた時、詩人は「神の御顔の光の中に置かれ」ることを自覚します。永遠の神の前に立つ時、人間の有限さの現実が見えてきます。神の光に照らされた時、人生の労苦や災いだと思っていたことの中に、自分の命の責任、「隠れた罪」が見えてきます。そして人のいのちは、ただ草花のように始まって終わるのではなく、神の望みや喜びによって人の命は創造され、罪に対する神の怒りによって消え去ると見るので、だからこそ、詩人は、人

生を虚しいものと諦めるのではなく、神にこのように祈るのです。「知恵ある心を与えてください」。生涯を、ただ日々を数えるように見なすのではなく、その有限な時間の枠の中にも価値や意味を見出して測り、人生の意味を確かなものにしてほしいと神に願うのです。

「帰ってきてください」。詩人は神の言葉を逆転させて用います。「人の子よ、帰れ」と言う人間の命を司る神の言葉に、「主よ、帰って来てください」と同じ言葉で応えて求めます。預言者たちが語った「シユーブ」、向きを変えて神に立ち帰れ、という言葉を神に向かって、わたしたちの方を見てください!と叫ぶのです。

死に定められた人間の命に、神が帰って来てくださる、神が自分たちの命を顧みて慈しみを満たしてくれる時には生きる者となる。朝が来れば移ろう根なし草ではなく、朝には神の慈しみに満ち、ため息ではなく喜びの歌を発することができるようになります。いのちの前も後も死に取り囲まれた短くはない人生ではなく、永遠の神を「宿るところ」(1節)とし、この人生を神の輝きの光の中で意味あるものとして生き、この手の働きを確かなものとしてくださいと。そして神がわたしたちの方を向き、来てくださるという願いはイエス・キリストにおいて應えられ、わたしたちが神に向き直って進むべき道も示されたのだと、わたしたちは信じて良いです。神の慈しみを自分たちの宿るところとしてこの世を生きることを「わたしたちの国籍は天にある」とパウロは伝えました。